

平成28年度重点戦略

「学び」をつなげるカリキュラム・マネジメント

学力充実に向けて5つの視点を効果的にカリキュラムに位置付ける。

①基礎・基本の定着

京都府学力診断テストや全国学力・学習状況調査の結果を組織的な授業改善や個別支援等に効果的に活用する。
☆学力を下支えする取組の充実 ☆小中連携の視点での結果の活用

②学習習慣の定着

予習・復習を中心とした主体的な学習習慣が身に付くように、取組を充実させる。
☆学習できる場の設定 ☆小中高連携の視点に立った学習方法の確立

③主体的・協働的な学びの充実

見通しを立てて、主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組み、振り返る学習過程を大切にする。
☆授業における見通しと振り返りの定着 ☆効果的な言語活動の位置付け

④自尊感情の育成

自己肯定感や自己有用感を高めるよう評価を工夫する。
☆「ありがとう」と言われる機会の意図的な設定

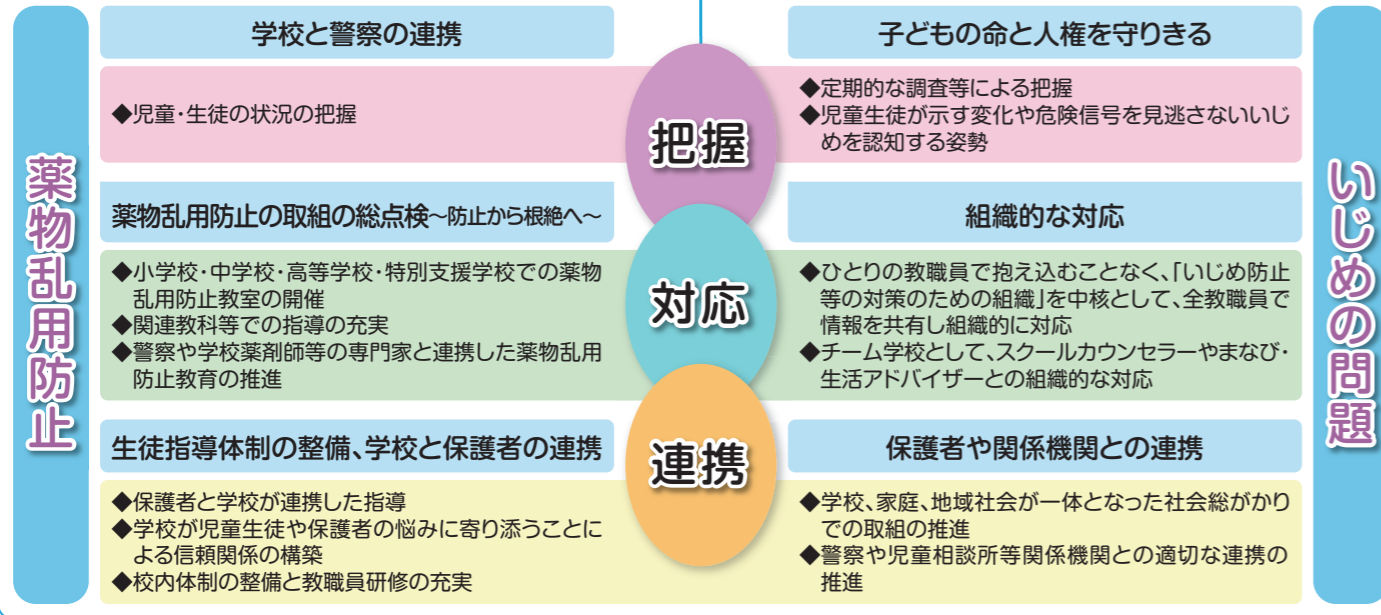
⑤校種間連携の充実

非認知的スキル(我慢強さ・継続する力等)や認知的スキル(メタ認知)を育成する。
☆スタートカリキュラムの作成と充実 ☆幼小中高のカリキュラムの連携

一人一人の命を大切にしたい取組

大麻や危険ドラッグ等の薬物が、児童生徒の身近なところまで拡大していることを踏まえ、更に踏み込んだ指導を徹底すること。

いじめは、児童生徒の生命の尊重を第一に、適切かつ敏速に対応すること。



府立高校の特色化推進と府立高校全体のレベルアップ

～魅力あふれる47校の特色～

「府立高校特色化推進プラン」に基づき、府立高校47校が特色化を推進し、生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育の実践に取り組む。

【「府立高校特色化推進プラン」特色化を進める10の柱】

- ①質の高い教育
- ②教職員の資質向上
- ③府民の信頼を得る学校運営
- ④徹底した進路保障
- ⑤修学の支援
- ⑥部活動の充実
- ⑦土曜日の活用
- ⑧多様な人間力の育成
- ⑨発信力・広報力の強化
- ⑩各校独自の施設設備の整備

グローバルネットワーク京都(8校)

【グローバルな視点を持ち、国際社会に発信できる人材の育成】

府立高校特色化推進プラン

府立高校をネットワーク化することにより、府立高校の人材や施設などの教育資源を活かして、生徒の主体的・協働的な学びを推進する。

京都フロンティア校(25校)

【学校の特色に応じた課題探究活動による次代を支える人材の育成】

スーパーサイエンスネットワーク京都(9校)

【独創的な科学研究により世界をリードできる人材の育成】

スペシャリストネットワーク京都(5校)

【社会・経済構造の変化に対応する真の職業人(スペシャリスト)を育成】

京都府教育振興プラン ～つながり、創る、京の知恵～

教育の基本理念

教育が果たすべき役割は、一人一人が自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすために必要な「力」を養うことです。「目指す人間像」に向けた人づくりのため、これまで「生きる力」、「知・徳・体」として表現されていた概念を、次のように3つの「はぐくみたい力」としてより具体的にあらわし、これら3つの力の調和を大切に教育を進めます。

温かくて厳しい、周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」こそが、安心や自信、誇りや責任感をもち、自ら、「未来を展望し」、「自然、人、社会とつながり」、「挑戦し続けて」いこうという意欲を引き出し高めるものと考えます。

特に、困難な状況におかれた子どもは、こうした感覚を持つことが難しくなっています。すべての子どもを愛情と信頼と期待とで包み込んでいくこと、すべての子どもが「包み込まれているという感覚」を実感できるようにしていくことが、教育にかかわる者の責務のひとつであると考えます。

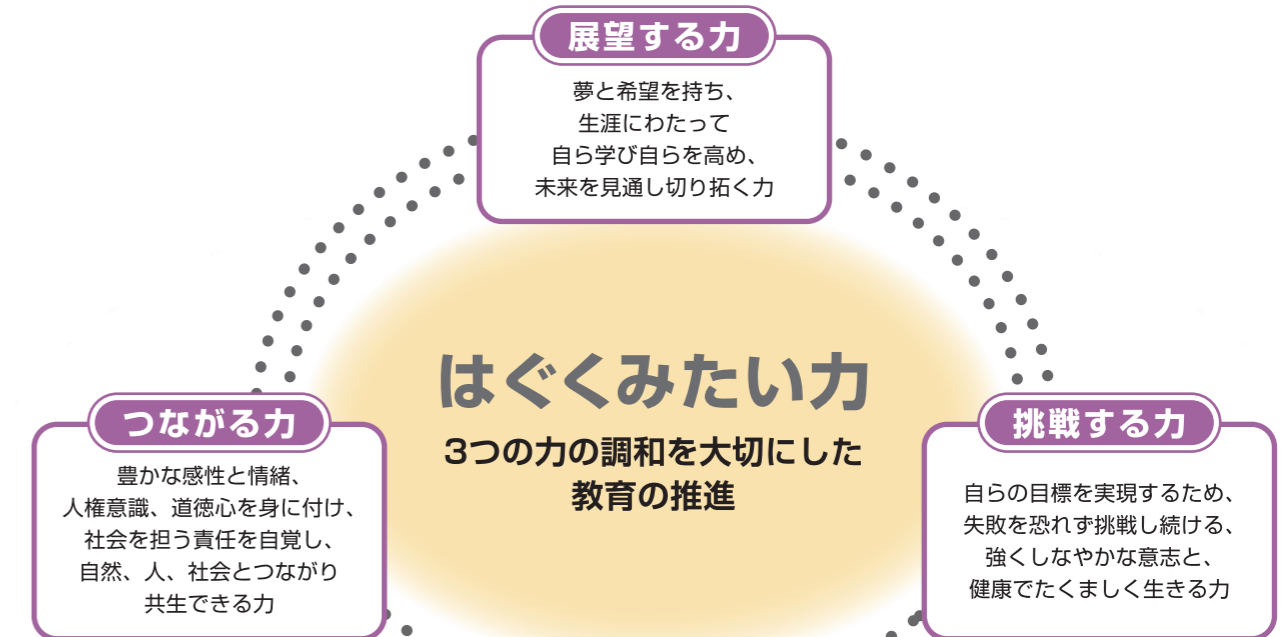
目指す人間像

◆歴史と伝統にはぐくまれた京都の知恵をつなぎ、自然、人、社会とつながる人

礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、積極的に社会と関わりながら、地域ではぐくまれた文化を愛し育て、次代の京都を支える人間

◆積み重ねられた知恵を活用し、新しい価値を創り出して世界に発信する人

高い志とグローバルな視野を持って、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、創造力豊かにこれからの社会づくりに貢献できる人間



包み込まれているという感覚

